

学校教育目標

- ◎学び考える力
- 思いやる心
- 明るく元気

【求められる資質・能力】

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力、表現力
- ・学びに向かう力、人間性等

【児童の実態】

- ・素直な児童が多く、友達と教え合うことができる。
- ・目標に向けて取り組むことができる。
- ・自分の考えに自信がもてない。
- ・自分によいところがあると感じている児童が少ない。
- ・自分で考え、自分から取り組んでいくことを苦手と感じている。
- ・国語・算数ともに好きと感じている児童が少ない。

【国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研究主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～国語科「書くこと」を通して～

研究仮説

- ・「わかった」「できた」と実感できる学習を積み重ねていくことで、より主体的な学びが形成され、自己肯定感や自信を養うことができるだろう。
- ・自分の思いや考えを書く力を意図的に伸ばしていくことで、自分で考え、自分から取り組んでいくことができるようになるだろう。

目指す児童像

低学年

他者の表現のよさを知って、自分の考えを整理して活かすことができる。

中学年

自分と他者の考えを比べることで、考えを広げ、自分の考えを深めてまとめることができる。

高学年

学びへの意欲をもち、他者と自分の考えを比べたり、深めたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

研究の内容・手立て

- 根拠をもって自分の思いや考えを書くことができる手立て**
【対話を通して、書く内容の見通しをもたせる。よいものに触れ、表現を広げる。】
- 自分の考えや思いを書くための技術を身に付けさせる手立て**
【作文用紙の使い方など、書き方のひな型を活用する。学年の指導内容を身に付けるために必要なことを明確にする。】